

■「効果の見える治水事業」

愛媛県 久米川の河川事業

『久米川災害復旧助成事業が平成 20 年度に完成』

愛媛県八幡浜地方局大洲土木事務所長 みずのりょうすけ 水野良介



■事業の概要

久米川は大洲市の中心部の西に位置し、大洲市阿蔵で愛媛県下最大の河川である肱川に合流する、流路延長 8.6 km、流域面積 32.26 km²の一級河川です。

久米川の下流部は平地が開け、浸水被害が発生しやすい地形となっている一方、大洲市肱南浄化センター、大洲市立病院、JR西大洲駅及び久米小学校といった公共施設が存しており、特に、右岸側は近年宅地化が進んできたため、治水安全度の向上が急務となっていました。

平成 16 年には相次ぐ台風により、大洲市では甚大な浸水被害が発生しました。

特に、久米川流域においては、台風 16 号、台風 21 号、台風 23 号と3度に渡り浸水被害を被りました。

なかでも、平成 16 年 8 月 30 日から 31 日にかけて来襲した台風 16 号においては、まず久米川の自己流による氾濫があり、その後、肱川本川の水位が上昇した 30 日深夜には肱川本川からの氾濫により床上、床下の浸水による甚大な被害が発生しました。その被害は、浸水面積 102.3ha、床上浸水 123 棟、床下浸水 82 棟にも上りました。

このため、延長 1,560mの区間について災害復旧助成事業の採択を受け、肱川本川の背水影響を考慮した築堤、洪水の流下に断面積を確保することにより、度重なる深刻な浸水被害の軽減を図ります。

施工位置 愛媛県大洲市阿蔵・西大洲

事業期間 平成 16 年度～19 年度

施工概要

施工延長:1,560m

築堤工:約 14 万 m³

護岸工:約 32 千 m³

樋門工:2基

橋梁工:2基

取水堰工:1基



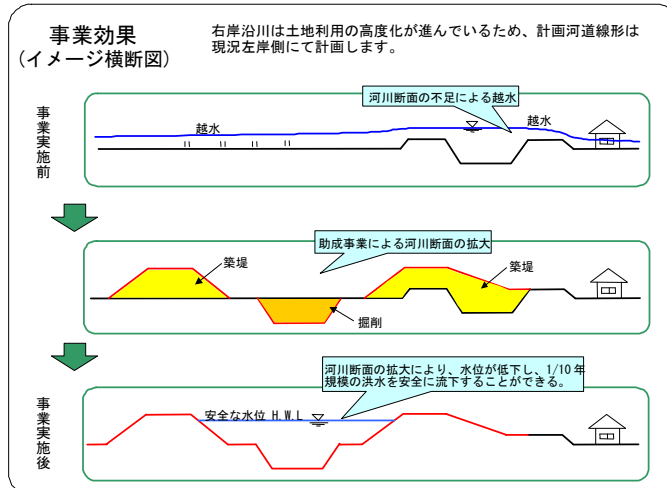
浸水状況(平成 16 年台風 23 号)



施工状況



進捗状況(平成 20 年 2 月)



◇「久米地区の浸水被害への取組み」



おもりたか お
愛媛県大洲市長 大森隆雄

大洲市は、愛媛県の西部に位置し、伊予灘に注ぐ県下最大の「一級河川肱川」とその支川にそって、田畑や集落、市街地が形成されています。水量が豊富で流れも緩やかな肱川を利用した舟運の要衝として栄え「水郷大洲」と呼ばれています。この市街地を流れる肱川では「うかい」「花火大会」「いもたき」など様々な行事が行われ、また沿川には風光明媚な名所が点在し、明治・大正時代の面影を残す土蔵造りの町並みとともに、肱川はまさに大洲のシンボルであります。

その一方で、肱川は、河口が狭隘なうえ河川勾配も緩やかで、多くの支川が中央部の大洲盆地に集中しているため、過去、たびたび洪水被害に悩まされてきました。そのため肱川の安全確保は、肱川と共に暮らしてきた流域住民にとっては長年の悲願であり、当市においても最重要課題であるところから、国、県におかれては、親水性や修景に配慮した河川改修に、鋭意ご努力をいただいているところであります。

しかしながら、近年の異常気象等により洪水の発生が多発し、平成16、17年と再度の被害を受けた「久米地区」は、都市的土地利用も相まって、洪水対策が緊急の課題でありました。また、当地区は、災害の頻度が高いこともあり、防災への意識が高く、住民一人一人が自立防災を自覚して「自主防災組織」を市内でも早い段階で設立されるとともに、久米川改修への要望活動を地域一体となって展開されていました。

このような背景を受けまして、国土交通省の「阿蔵地区河川改修事業」と併せて、愛媛県におかれては「久米川災害復旧助成事業」の採択をいただき、4年間という短期間で、このたび、治水安全度の向上を確保できることとなります。

今後とも、国、県のご高配をいただきながら、「自助・共助」の精神による、地域における自主防災組織の育成強化や、企業における事業継続計画(BCP)策定の促進など、ソフト面での減災対策の推進とあわせて、ハード面では、平成16年5月に策定された「肱川水系河川整備計画」に基づき、上下流の治水バランスを考慮した河道の整備と、全川にわたり水位低下を図ることのできる洪水調整施設(山鳥坂ダム建設、鹿野川ダム改造)の整備を推進することにより、肱川流域全体の治水安全度の早期向上に努めてまいりたいと考えています。



○城壁風の修景護岸
水際には階段護岸も整備され、鵜飼いやカヌーの水面利用も盛んに行われている

【写真左】肱川と大洲城
史料に基づき木造によって完全復元された大洲城と豊富な水量の肱川で繰り広げられるカヌー

【写真右】大洲花火大会
色とりどりの花火で彩られる、大洲の夏の夜。金色に染まった川面に浮かぶ屋形船の風情もひとしお。